

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 9月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	2294200098
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム 静岡駿河の家
所在地 (電話番号)	静岡県静岡市駿河区中野新田 396 (054-287-7000)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年6月25日

【情報提供票より】(平成21年05月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	12人 / 非常勤 3人 / 常勤換算 13.6人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り 2階建ての1階~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥57,000	その他の経費(月額)	¥12,000	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ¥100,000	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり ¥1,300			

(4) 利用者の概要(平成21年06月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	萩原医院 ・ 深沢歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東名静岡ICの北側に隣接し、主要道路から70~80m入った比較的閑静な市街地にある。法人グループ50番目のホームで、若い地域責任者・館長とケアマネジャー・職員の信頼関係が感じられ、利用者本位の介護の実践が行われている。運営理念は地域密着型に相応しく「地域に根付いた、明るく楽しい 笑顔が絶えない 夢のある我が家」という独自の理念を掲げ、理念通り地域に密着した活動が行われている。レベルの高い支援が行われているが、更に新しい課題を見つけ出し、二つのユニットの特徴を浮き彫りにした取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年指摘された「重度化や終末期に向けた方針の共有」・「鍵をかけないケアに実践」・「栄養摂取や水分確保の支援」は、全て改善されていた。また、他から指摘された「スタッフの名前入り写真の掲示」・「目安箱の設置」等も行われていた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、今回の自己評価表の作成も全員で取り組んだが、「今後取り組んでいきたい項目」が無く、また1号館・2号館が共通で記載されていた。良いレベルに有るにしても更に一步前進するために、絶えず新しい課題を探ることと、ユニット間の特徴を浮き彫りにした取り組みが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政や近隣の理解の下に、会議は然るべきメンバーが全員参加し、2ヶ月に1回着実に開催されている。議題も通常の状況報告だけでなく、問題点(利用者の不穏や転倒事故等)の率直な報告も行われ、近隣との関係では職員の夜間の車のライトの対応等、サービスの向上や地域との交流に密着した話し合いが行われ、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記があり、目安箱も設置され、何時でも耳を傾ける体制にある。運営推進会議や来訪時に率直な話し合いを行い、運営に反映させている。利用者毎に担当職員を決め、毎月一人ひとりに手紙を書いて報告している。身寄りの無い人以外は、請求書は原則ホームに取りに来て貰っており、その折近況を報告し、相談にも乗っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入し、回覧板も回してくれる。近所の行事の案内もあり、お祭り・バザー等にも参加している。天気の良い日は、日課の朝のラジオ体操には近所の方が必ず参加してくれ、散歩の折は挨拶を励行し地域との交流に努めている。
④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型になり、昨年から理念にそれに相応しい文言を追加し「地域に根付いた(追加文言)、明るく楽しい 笑顔が絶えない 夢のある我が家」という独自の理念を掲げて活動している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、地域密着の意義を職員や新入社員にもよく説明し、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し、回覧板も回してくれる。近所の行事の案内もあり、お祭り・バザー等にも参加している。天気の良い日は、日課の朝のラジオ体操には近所の方が必ず参加してくれ、散歩の折は挨拶を励行し地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域責任者・管理者・職員は評価の意義を理解し、昨年の指摘事項について全て改善されていた。今回の自己評価表の作成も全員で取り組んだが、「今後取り組んでいきたい項目」が無く、また1号館・2号館が共通で記載されていた。	○	素晴らしいレベルにあるが、ホームはこれで良いと言うことはなく、状況の変化に合わせて絶えず新たな課題を探す姿勢が必要である。また、利用者一人ひとりの個性が違うように、1・2号(ユニット)館の特徴を浮き彫りにした取り組みが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は然るべき参加メンバーの下に、2ヶ月に1回着実に開催されている。ホームの状況報告では、問題点(利用者の不穏や転倒事故等)の率直な報告、近隣との関係では職員の夜間の車のライトの対応等、サービスや地域との交流に密着した話し合いが行われ、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の利用者が多い関係もあり、入居状況の報告・相談・更新手続き等、市担当者との行き来は盛んである。市・地域包括支援センター等の研修会・事例研究会等にも参加し、共にサービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者毎に担当職員を決め、毎月一人ひとりに手紙を書いて報告している。身寄りの無い人以外は、請求書は原則ホームに取りに来て貰っており、その折近況を報告し、相談にも乗っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記があり、目安箱も設置され、何時でも耳を傾ける体制にある。運営推進会議や来訪時に率直な話し合いを行い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人物本位の採用を心がけ、職員の安定に注力している。代わる場合はフロア長やベテランがつなぎ役を務め、異動等によるダメージを最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修体系がしっかりしており、職員のレベルに合わせた課題レポートの提出を義務付けている。資格等の奨励制度も設けられており、社内身分にも直結している。研修記録簿はあるが、研修計画表は見られなかった。	○	管理者の頭の中にある一人ひとりの職員のレベル分析と、ホーム独自の「職員自己評価表」等をドッキングし、年間研修計画に基づく計画と実績の対比等も検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや社会福祉協議会が主催する会議・研修・事例検討会に参加し、同業者との交流を図っている。利用者の移動等の情報交換から、ネットワークも徐々にでき始めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの生活を詳しく説明すると共に、入居前に見学の機会も設け、利用者・家族が不安なくサービスが利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事前アセスメントや本人・家族の情報から得意分野をさがし、才能を発揮してもらったり役割を持ってもらいながら、共に支え、学び合う関係を築くよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と親しみ深く接しており、家庭的な雰囲気がある。会話も多く、利用者一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努め、それらを大切に生活がみられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、出来るだけ本人や家族の意見を取り入れるように努めると共に、担当介護職員とケアマネージャーが話し合って作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度見直している。また、月に一度、モニタリングとカンファレンスを行っており、状態変化時には、利用者、家族、職員と話し合い、現状に即した新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診は家族同行が原則だが、家族の都合等を尊重し、付き添いや薬局への薬もらいなど、柔軟な対応をしている。理美容についてはホームに訪問してもらっており、利用者や家族から喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の納得の得られたかかりつけ医(内科、精神科、歯科など)が、グループホームから歩いていける範囲にあり、連携をとっている。受診には出来る限り看護師が同行し、利用者の健康に万全を期するよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時の対応及び重度化・見取りに関する指針を新たに作成し、方針を共有している。医療連携体制の中で看護師を中心に主治医との連携も深めている。また、今年度の法改正に伴う「看取り介護加算」が受けられる体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉は明るく自然体である。利用者一人ひとりの状態に応じて、分かり易い言葉でプライバシーを損ねないように耳元で伝えたり、励ましたりなど、利用者の気持ちに添った対応を心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、自分の思いで居間と居室を自由に行き来し、その人らしい暮らしが定着、全体的に落ちついている。また、職員はその人の興味のあること、得意とすることを把握し、本人の希望にそえるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや栄養面にも配慮した献立を基に、毎日交代での食材の買い物を楽しんでいる。美味しく食べてもらうために検食制度が活用され、食事の準備や片付けも利用者と共に手際よく行なっている。また、月に2回、本部からの行事食が届けられ、喜ばれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間帯を決めてはいるが、ユニット別に入浴日の曜日をずらすことで融通を利かすことが出来、利用者はいつでも入浴できる体制が整えられている。浴槽が大きく、時には仲良し3人くらいで一緒に入って楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は茄子やきゅうりなどの野菜作り、納涼祭ではそうめんのつゆをいれる竹筒作り、食事の準備や片付け、洗剤、モップ掛けなど、夫々の力に応じて役割を持って生活している。また、車で日帰り温泉旅行なども実施され、楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、広い駐車場で近所の方々を交えてのラジオ体操の交流が続けられている。その後の日課の散歩、また、畑作業、買い物など、戸外へ出かける機会も多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が手薄の時など、必要に応じて鍵はかけているが、鍵をかける弊害は理解している。日常的に戸外へ出かける機会も多く、開放的な雰囲気があり、利用者は落ちついてい		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ての防災避難訓練、及び消防訓練が定期的に行われている。防火設備の点検を始め、職員への防災教育についても行われている。広い駐車場は、地域避難場所としても提供されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に加えて、水分量の記録もされるようになり、一人ひとりの摂取状態が把握されている。少ない利用者には意識的に働きかけ、工夫したり励ましたりしながら摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、掃除も行き届き清潔で明るい。行事の際の写真が飾られていたり、利用者の作品や似顔絵が飾られ、楽しい会話につなげることも出来、工夫されている。食堂にはソファもあり、利用者は思い思いの気に入った場所できつろいでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、ギター、リュックサック、自作の絵、家族や親戚との写真、小説、など、それぞれに思い出深い物、生活史を感じさせられる物などが置かれている。また、利用者の力に応じて簡易トイレを置いたり安全面の配慮がなされている。自室を気に入りに得意げに話す利用者の姿が見られた。		